

研修機関	社会福祉法人 七尾市社会事業協会ななお乳児園
研修期間	平成20年11月11日～12月10日
所属・氏名	七尾市立中島小学校 今井 あゆみ

I 研修目的

- ・児童福祉法に基づいた乳児院という施設の現場を体験することで視野を広げ、人間性や社会性を磨き教員としての資質の向上を図る。
- ・乳児院としての施設の理念や入所児・施設利用児への工夫や努力について理解し、今後の教育活動に活かす。
- ・入所児への養育姿勢からその子に応じた関わり方を学ぶ。

II 研修内容

1 オリエンテーション

- ① 施設の概要について
- ② 養育方針について

法人理念、ななお乳児園の理念、基本方針、目標、望ましい子ども像、養育姿勢

2 入所乳幼児の養育研修

① 養育全般の補助

ア 食事・おやつ等の援助

(おしぼり準備、テーブル拭き、手洗いへのうながし・援助、食事の配膳・個別に盛りつけ・片付け及び食事援助、歯磨き援助、配膳台準備・片付け・授乳)

イ 健康管理 (検温・衣類管理・室内の気温と湿度管理など)

ウ 入浴援助 (入浴準備、入浴へのうながし)

エ 排泄援助 (排泄へのうながし、排泄援助、オムツ交換)

オ 睡眠援助

カ 保育・遊び援助

② 作業

玄関掃除、下駄箱の上・玄関戸拭き、布団敷き・片付け、室内清掃、室内整理・整頓、洗濯・洗濯物たたみと仕分け、風呂掃除、園芸、玩具消毒

③ その他

ア 引継ぎ参加 記録補助

イ 普通勤務以外に

早番：午前6：30～午後3：15

遅番：午後1：15～午後10：00

夜勤：午後5：00～午前9：00

デイリープログラム	
7：00	起床 朝食 あそび
12：00	昼食
13：00	昼寝
15：00	おやつ あそび
18：00	夕食
19：00	入浴 だんらん
21：00	就寝

3 子育て支援サービス研修

① 施設利用児とのコミュニケーション

(話し相手、読み聞かせ、保育・遊び援助等)

② 食事・入浴・排泄・睡眠援助等

Ⅲ 研修成果

1 「乳児院」という施設に対する理解

これまでに「乳児院」という施設の名前を聞いたことはあった。しかし、その理解は耳から聞いた情報で形成された曖昧な理解であったことに気づかされた。

ななお乳児園の幼い子ども達は、職員の方々の愛情あふれる施設の中で健康で子どもらしく生活していた。様々な事情で家族と離れて生活している子ども達だが、どの子どもも本当に笑顔がすてきな子どもらしい子ども達であった。笑顔がそれほど輝いていたのもこのななお乳児園が子ども達にとっての正にもうひとつの「お家」であるからだと思う。

初めは、「乳児園」という言葉のもつイメージが先行して、幼い乳児を預かっている保育園のような施設だろうかと曖昧な知識しかなかった。県内でも乳児院としての施設はななお乳児園を含めて2ヶ所しかないということなので、私のように十分な理解ができていない人も多いように思う。自分が教員である限り、今後、乳児院で育った子ども達と出会うことがあるかもしれない。また、乳児院で育った子ども達と出会う子ども達を教育することもあるかもしれない。この研修によって、「乳児院」という施設やそこで生活する子ども達への理解は以前より深まったと思う。施設や子ども達に対しての間違った理解や偏見の目が生じることのないように、研修で学んだことを今後の教育活動の中で生かしていきたい。

2 人として育つにふさわしい環境の提供

乳児園に行ってみてまず目にしたのは、きれいに咲いている色鮮やかな花であった。見ただけで心が穏やかになり、うれしい気持ちになった。季節に応じて植え替えして季節の花を楽しむことができるようにしている。子ども達は、散歩へ行く前には玄関前の花を見たり植木の落ち葉や枝で遊んだりしていた。

また、園の中は、2つのホーム（「ぷくホーム」「ももんホーム」）から成り立っていてそれぞれ別の玄関から入ることになっている。部屋の中は子ども達がゆったりとした気持ちで安心して生活できるように工夫されていた。緑が美しい観葉植物は心を穏やかにしてくれた。私が研修した期間は季節の変わり目（秋～冬）であったため、秋らしい花や落ち葉・木の実などが飾ってあったりクリスマスの装飾がなされたりしていた。子ども達の写真や作品も飾ってあった。手作りの玩具もさりげなく置いてあり、いつでも手にとって遊ぶことができる。本当に温かな家庭の雰囲気あふれる室内だった。

このような乳児園の環境が、感性豊かな子どもらしい子ども達を育てていくのだと学んだ。

3 職員間の情報共有とチームワーク

勤務を交代する際に必ず行われていたのが「申し送り」である。記録簿に記録することはもちろんであるが、必ず口頭でも行われていた。子ども達の健康状態を中心に遊びの様子や出来事、注意してほしいことなどをしっかり伝えていた。

また、日々の情報交換の他、全職員が情報を共有して一貫した対応をできるようにホーム会議や職員会議を適宜開いていた。何人もの職員で子ども達を見ていく中で職員間に対応や認識のズレがないように、熱心に話し合いが行われていた。

日々の業務の中では、職員同士で勤務時間帯がずれているため、必ず勤務の始めと終わりには職員一人ひとりに気持ちのよい挨拶と声かけが行われていた。いつ誰が来て、いつ帰ったか互いにコミュニケーションを図りながら、その日の業務を分担し協力して進めていた。子ども達の状態によって予定通りに業務ができなくなることもあったが、「私が〇〇してきます。」「〇〇してもらえますか？」と臨機応変に対応している様子

を目にした。職員間の信頼関係・連帯感がしっかり培われているからこそ、迅速に対応できるのだと感じた。

4 個々の子どもへの適切な対応

乳児園では入所している一人ひとりの子ども達に対して「養育担当制」を行っていた。担当保育者と個別な関わりを持つことができる時間を確保していた。園の中でだけでなく、市の図書館へバスででかけたり、買い物に行ったりもしていた。出かけていく時の子ども達は、とても楽しそうで、帰ってきてからお出かけの様子をうれしそうに話していた。バスに乗ったことや運転手さんの様子を再現して「バスごっこ」をして遊ぶ子どもいた。生き生きと活動している姿を見て、担当保育者と過ごす時間が子ども達にとってかけがえのない時間となっていると感じた。

保護者から離れて生活している子ども達にとって、個別に関わりを持つことができる大人の存在は心身の成長にとって欠かせないものである。一人の大人と特別な愛着関係を築くことで他人と自分に対する信頼感を育てることができるのだと学んだ。学校生活では担任とクラスの児童という関係で大部分の学校生活の時間が流れていく。しかし、学年の発達段階や個々の心身の発達状態に応じて、個別に接する時間をもっと大切にしていかなければいけないと感じた。

5 家族のモデル、家庭のモデルとなる養育姿勢

職員の方々は、勤務時間帯を交替しながら、子ども達の 24 時間、365 日を支えている。子ども達は、様々な職種の職員の方々が保育と業務を協力してやり遂げる姿を常に目にしている。「〇〇で〇〇してきます。」「お願いします。」「ありがとうございます。」などの言葉のやりとりや仕事する姿を側で聞いたり見たりしながら生活している。そんな助け合いながら共に育ち合う職員の方々の姿が子ども達にとっての家族のモデル、家庭のモデルとなっている。

学校でも同じことがいえると思う。大人である私達の言動の一つ一つが子ども達にとってのモデルとなる。今まで何気なく発していた言葉や何気なくとっていた行動の一つ一つを子ども達が常に聞いて見ていることをもう一度しっかり認識しなくてはいけないと気づいた。

6 地域とのつながり

なおお乳児園は、地域に開かれた施設としてさまざまな子育て支援を行っている。「子育て支援サービス」は、冠婚葬祭・仕事・看護・資格所得等、一時的に家庭で子どもを見ることができなくなったときに利用されるサービスである。施設利用できる子ども達は0歳児から小学校3年生である。事前に連絡をして利用される方が多いが、時には急な用事で直前に連絡して利用される方もいる。どんな場合でも常に笑顔で子ども達を迎えている職員の方々の温かい姿が印象的だった。慣れない場所で最初は泣いていた子ども数分後には笑顔で遊びの輪に加わっていた。やむを得ない事情で子どもを見ることができなくなった時、地域にこのような施設があるということは保護者にとって大変心強いことである。特に夜間の勤務をしている方にとっては本当に安心して子どもを預けることができる施設であると実感した。小学生も利用しているということから学校ともつながっていることを知った。

また、毎週土曜日にローランド演奏を聴きながら子育てについて語り合える「パパ・ママのリフレッシュタイム」や離乳食講習会を行ったり、地域の子ども会との交流も行ったりして施設を開放していた。

学校を含めた地域社会全体で子ども達を育てていく上で、乳児園という施設との様々なつながりを知ったことは大きな収穫だった。

IV 今後の課題

自分は今まで「学校」という職場でしか勤務した経験がなかったが、今回の研修で初めて「学校」以外の職場を経験することができた。福祉の現場に朝・昼・夜というものは関係ない。子ども達の生活を施設としての休みなしで全職員の方々が協力して支えているのだ。そんな大変な勤務形態の中、真摯な姿で働く職員の方々の姿を目にして、自分が今までいかに自分の世界の中だけで生活してきたかということに気づかされた。そんな中いつのまにか偏った考え方・見方をしていることがあっただろう。福祉の現場だけでなく、社会の中には24時間、365日休み無しという職場はたくさんある。頭ではわかっているつもりでも実際に経験する中で再認識した。勤務を続けていく上で体調管理や家庭生活上の家族の理解と協力の面など職員の方々のご苦勞をうかがい知ることができた。乳児院という施設で暮らす子ども達、そこで働く職員の方々との出会いはさまざまなことを考え直すきっかけとなった。もっと物事を多方面からとらえ相手の立場を思いやる姿勢をもつことができるようになりたいと感じた。

ほんの一部かもしれないが「学校」以外の職場を経験できたことは、教員としての視野を広める貴重な機会となった。子ども達と散歩して乳児園の近くのお寺のすばらしい紅葉や風景を目にした。またそこで暮らす町の人々と出会った。一步外の世界へ足を踏み出すことでいろんな世界が見えてくる。気づかなかったことに気づく中で自分の感性が磨かれていくと思う。そのことを実感できた研修であった。今後もいろんな場へ出ていろんな人と触れ合い、さまざまな経験をすることが教員として、人間として成長していくことにつながると思う。地域社会の一員として自分がいろんな人々とつながって生きていること・いろんな人々に支えられて生きていることを常に心に留めて教育活動に携わっていきたい。また、この研修を通して学んだことを今後、子ども達や保護者の方々へ還元していくことができるように努力していきたい。

最後に、大変お忙しい中、快くこの研修を引き受けていただきご指導くださった「ななお乳児園」の職員の皆様に心から感謝いたします。また、このような研修の機会を与えてくださった石川県教育委員会、中能登教育事務所、七尾市教育委員会の皆様方、支障なく研修できるように配慮してくださった中島小学校学校長はじめ職員の皆様方、ご理解してくださった保護者の皆様方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。